

### 茂庭台小

## 楽しみながらやりがいも



これがイチオシ

### 受け継がれる「合言葉」

茂庭台小学校には「あいすだんご」という合言葉があります。「あ」は「ありがとう」。「い」は「一緒に遊ぼう」。「す」は「すごいね」。「だ」は「大丈夫」。「ん」は「がんばって」。「ご」は「ごめんね」。

「あいすだんごちゃん」というイメージキャラクターもいます。前年度、毎月5がつく日を「あいすだんごの日」と決め、ポスターや放送で合言葉を使うように呼びかけています。先輩たちから受け継がれている合言葉なので、これからも大切に使っていきます。

学校名 仙台市立茂庭台小学校  
所在地 仙台市太白区茂庭台4の17の1  
創立 1985年  
電話 022(281)1424  
校長 立山信  
児童数 174人

茂庭台小学校では年に1度、「茂庭っ子きょうだいまつり」という行事を開きます。6年生が中心となって計画を練り、それぞれ違う学年同士の班ごとに一つの店を開きます。他学年との関わりを深めることを目標としています。



編集委員 大江美枝、小笠原希、小形将翔、木村輝空、我妻紗月、渡辺那美(3月卒業) 指導教員 工藤千晶、庄子幸子

### すてきな伝統「まつり」

前年度のまつりでは「ダニエルを探せ」や「目隠しチャンバラ」、「スパイアドベンチャー」などの店がありました。開く店は班ごとに違うので、毎年いろいろな店があったりして、楽しめたりします。

自分たちでどのような店を開くかを考え、必要なものを手配りするのはとても時間がかかります。当日多くの人で賑わって、当日多くの人で満足してもらえた時はとてもやりがいを感じることがあります。班の人と助け合い、協力する力が身に付きます。

茂庭っ子きょうだいまつりは、1〜6年生の全ての学年が交流できる非常に良い機会であり、他学年と仲を深めるチャンスです。

これからも茂庭台小にしかないすてきな伝統を大切にして過ごしていきたいです。

## わが校わがまち スクール通信



今回は 志波姫小(栗原市) 長瀬小(亶理町)

## 全学年が交流 自慢の一つ

### 船迫小

### スローガン掲げて活動

船迫小学校は「一目千本桜」で有名な柴田町にあり、春には美しい桜が咲き誇る自然豊かな学校です。昔から「夢に向かって船迫小」という合言葉があり、昨年度は「全力・協力・one team 最高の学校をつくらう!」というスローガンを掲げ、より良い学校を目指しました。私たち計画委員会は毎週水曜に「あいさつ運動」をしています。朝、元気にあいさつができた人を放送で紹介することで、良いあいさつができる人が増えてきました。



編集委員 川崎修吾、佐藤清、松田陽向、吉田風、岡崎漢、佐々木政晴、渋谷優成、員野航悠(3月卒業) 指導教員 井田流悠



これがイチオシ

### 開校から続く「山登り」

船迫小学校のイチオシ行事は10月の「アタック5」です。違う学年同士の班ごとに全校児童で山を登る開校から40年以上も続く伝統行事で、約6キロの道のりを2時間かけて歩きます。途中、校歌にも登場する「羽山神社」で歌い、安全を祈るのが船迫小流です。一番の楽しみは山頂の「太陽の村」でお弁当を食べたり、遊具で遊んだりすること。急な坂道もあって大変ですが、6年生が下級生を励まし、助け合うことで強い絆が生まれます。達成感と笑顔があふれる最高の行事です。

学校名 柴田町立船迫小学校  
所在地 柴田町西船迫3の1の3  
創立 1980年  
電話 0224(55)5394  
校長 杉山かおり  
児童数 273人

## 子どもみこし元気に

### 宮城・亶理の鹿島天足和気神社



約1900年前に宮城県亶理町に勧請されたと伝わる同社で4月19日、例祭があった。子どもみこしがあり、元気な声が地域に響き渡った。

子どもみこしには、法被に身を包んだ小学生や未就学児ら約20人が参加。台車を使いながら、神社を起点に山あいや田園地帯、市街地など7・5キロの道のりを「わっしょい、わっしょい」というかけ声を上げながら元気に練り歩いた。

子どもみこし渡御に初めて参加した。かけ声を上げながらみこしを引く子どもたち

加した亶理小6年の鈴木啓斗さん(11)は「ずっと声を出すのが大変だったけど、楽しかった」と話した。花岡秀樹さん(11)は「伝統のみこしを担いでうれしかった」と語った。

神社は、日本武尊が111年に亶理町の三門山の山頂に勧請したと伝わる。移転と廃絶を経て、1686年に亶理伊達家5代当主の伊達実氏が現在地で再興した(4月24日朝刊より)

## オリジナルの味楽しんで

印度カレー子のカレーとスパイスのひみつ 印度カレー子 著 matsu 挿絵 金の星社



本のプロ 推しの一冊

みなさんはカレーが好きですか? 仙台市出身の印度カレー子さんが書いた、カレーが出てくるお話をご紹介します。主人公のさとは、毎日カレーを食べてもいいくらいカレーが大好きな男の子。カレーの箱に書いてあった原材料を見て、香辛料とは何か不思議に思います。「香辛料はスパイスね。カレーの香りのもと」とお母さん。それを聞いたさとはスパイスに興味を持ち、幼なじみのひ

なちゃんとスパイスに詳しいひなちゃんのおばさんの家を訪ねます。そこで出会う数々のスパイスたち。2人は3種類のスパイスからカレーを作り始めます。読むと、自分でもスパイスカレーを作りたくなってきます。さとのたちのようにスパイスを使ってオリジナルのカレーを作ってみてはいかがでしょうか? きっと楽しいと思いますよ。小学校高学年から。(宮城県図書館 佐藤加奈子)